

令和8年5月8日
福井県教育庁

令和8年度 福井県総合教育会議 結果概要

◆ 主な意見

○教育委員

- ・福井県では、生徒が将来の進路や生き方について考える機会が多くあり、それが県立高校の魅力向上につながっているのではないかと懸念している。
- ・取組みが多岐にわたる中で、教員が十分に対応できるのか懸念している。教員だけに負担がかからないよう、専門的な知識を持つ方を中心に上手く機能するよう取組みを進めていただきたい。
- ・鯖江高校は、普通科や探究的な学びに取り組む生徒にとっても有効な情報拠点になり得るため、柔軟で幅広い活用を検討してほしい。
- ・県内定着を重視しすぎるのではなく、大学進学や就職で一度県外に出てから福井に戻って活躍するという選択も大切にすべきである。
- ・県立高校の良さが県民全体に十分に伝わっていないように感じる。県民の皆さんが各高校の良さを実感できるよう、発信を強化することが重要である。
- ・改革先導拠点校（坂井高校、敦賀高校、鯖江高校）と協力校が学校の枠を超えて学び合える仕組みも必要ではないか。
- ・先進的な設備の整備に期待しているが、設備整備と同時に、それを活用し学びにつなげるための人材の育成も重要である。
- ・敦賀高校の取組みとして理系人材の裾野拡大が盛り込まれているが、小中学生を含む全世代が継続的に科学に親しめる機会を作ることは重要であり、理科支援員の確保も含めて力を入れていただきたい。
- ・地域の企業や大学等との連携だけでなく、他校や他県とも連携することにより、新たな学びにつなげてほしい。
- ・様々なことに一生懸命に取り組む高校生の姿が小中学生の憧れとなり、進学動機につながっていると思う。
- ・学校の魅力向上においては設備や制度等の機能面の強化だけでなく、生徒や教員といった「人の魅力」を大切にしたい学校づくりが必要である。

○教育長

- ・人口減少が地方の大きな課題であり、福井県では小中学校における「ふるさと教育」に力を入れているが、高校においては取組みを強化していく余地があると感じている。高校においても地域をテーマとした探究活動を実施するなど、県外に進学・就職した後も福井とのつながりを持ち続けられる人材を育てていきたい。

○知事

- ・県外で学び経験した人材が、福井の魅力を再認識し、福井で活躍したいと思える環境づくりが重要であると感じた。
- ・県内外の学生や保護者に、福井の教育の素晴らしさが届くような発信力の強化に取り組んでいきたい。
- ・改革先導拠点については、今回協議した坂井高校、敦賀高校、鯖江高校の3校を候補として、速やかに国への交付申請手続きを進めていただきたい。併せて、他の県立高校についても、特色化・魅力向上を図るための取組みに県としても全力で応援していきたい。
- ・今後は、幅広い分野から参画いただいたプラン策定委員の皆さまのご意見や、県議会での議論も踏まえながら、実効性のある計画を教育委員会を中心に策定していただきたい。県としても、小中学校の魅力向上を含めて応援していきたい。